2025 年度事業計画書

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 TEDIC

１．基本方針

2024 年度に引き続き、石巻市や宮城県からの委託、助成金などを活用し、生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援や相談センターの開設、子ども・若者の居場所づくり、地域とのつながりづくり、研修などを実施する。

２．特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者／予定人数	事業費見込（千円）
子ども・若者支援事業	石巻市生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業業務（石巻市委託）	2025 年 4 月～2026 年 3 月	石巻市内 6 拠点	10 名	石巻市内に住む生活困窮世帯の子ども（高校生年代まで）100 名	28,743
	石巻圏域子ども・若者総合相談センター事業等委託業務（宮城県委託）	2025 年 4 月～2026 年 3 月	石巻市 東松島市 女川町	6 名	石巻圏域に住む 0～39 歳の子ども若者年代 新規：60 件 相談延べ件数：1000 件	10,218
	子どもたちを地域で支える居場所事業	2025 年 4 月～2026 年 3 月	石巻市	2 名	小学生～高校生年代	2,992
	子どもがエンパワーされ、そのプロセスで大人もエンパワーされる居場所づくり事業	2025 年 4 月～2025 年 9 月	石巻市	3 名	小学生～高校生年代	2,977

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者／予定人数	事業費見込（千円）
子ども・若者支援事業	子ども・若者の居場所から始まる地域のつながりプロジェクト	2025年4月～2025年9月	石巻市	3名	ほっとんち： 石巻市内在住の不登校児童生徒　小学生192名、中学生401名 レインボーハウス： 石巻市内在住の5歳～19歳男女：14,818名 ※令和6年のデータ	9,037
	石巻圏域の高校生と大学生のための第3の居場所づくりプロジェクト	2025年4月～2026年3月	石巻市 東松島市	2名	石巻圏域の高校生大学生相談件数：120件	9,860
研修事業	研修視察 ※自主財源・助成金事業予算内で実施	2025年4月～2026年3月 全33回	全国及びオンライン	1名	子ども若者支援に関心がある方：100名	-
普及啓発事業	なし					
その他	なし					

石巻市生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業業務（石巻市委託）

スタッフ

統括責任者兼相談責任者：津富

大庭、橋浦、阿部望、高橋（事務)、小出（事務）

他新規 3 名採用予定

予算

28,743,256 円

目的

⑴　生活保護受給世帯を含む生活困窮世帯の子ども（以下、「子ども」という）に対し、学びの場、安心安全な場、多様な価値に触れられる機会を保障することで、子どもが本来持っている力を引き出す。

⑵　保護者を含む世帯の状況に応じて、必要な社会資源の紹介、つなぎ支援を実施することで子どもの育つ環境を整える。

⑶　本事業への市民の参加を積極的に促すことで、子どもの育ちを見守る、子どもの応援者を増やす。

活動内容

拠点型（６拠点)、訪問型での学びの支援・生活支援

保護者や家族への助言・相談支援、関係機関との連携支援

支援プログラム計画書・評価書を用いて本人と計画作成・ふりかえりの実施

イベント実施（お楽しみイベント、長期休みの勉強会など）

石巻圏域子ども・若者総合相談センター事業委託業務（宮城県委託）

スタッフ

統括責任者（センター長）兼相談責任者：津富

千葉、橋浦、加倉井、三玉、佐藤（事務）

予算

10,218,154 円

目的

「子ども・若者育成支援推進法」（平成２１年法律第７１号）の趣旨に基づき、子ども・ 若者の様々な相談に対して関係機関と連携した総合相談窓口を設置し、制度の縦割りや年齢 の切れ目によらず、相談機会や必要な情報の提供を行い、適切な社会資源や場につなぐ育成 支援拠点の体制を確保する。

活動内容

（１）総合相談窓口の設置 ・来所、電話及び電子メール等による相談対応を行うこと。

（２）相談者対応　・相談内容に応じて必要な情報の提供及び助言を行うこと。

（３）出張相談会の開催　・各市町の状況に応じて出張相談会を開催すること。　・開催時期や開催回数等については、発注者と受注者が協議して決定すること。

（４）各関係機関等へのつなぎ支援　・相談内容に応じて、各関係機関等に適切につなぐこと。

（５）相談の記録・管理　・相談内容を適切に記録し、個人情報の取扱いについても適切に管理すること。

（６）実施状況報告　・受注者は、毎月、別に定める実施状況報告書を作成し、翌月１０日までに発注者へ提出す ること。　・受注者と発注者は、原則として、実施状況報告書提出後、打合せを行うものとし、連絡事 項等を相互に共有すること。　・受注者は、委託業務完了後、速やかに業務完了報告書等を作成し、発注者へ提出すること。

（７）センターの広報・周知　・センターについて、対象者へ様々な方法を用いて周知すること。

報告

実施状況報告

受注者は、毎月、別に定める実施状況報告書を作成し、翌月１０日までに発注者へ提出。年度末は年次報告書を提出。

子どもたちを地域で支える居場所事業

スタッフ

林、吉野

予算

2,922,000 円（独立行政法人福祉医療機構　こどもの未来応援基金）

目的

子どもたちが居場所に来ることで地域と繋がれ、そこに関わる地域の人たちも子どもたちと繋がり、子どもたちを地域の大人で支える居場所つくりを目的とする

活動内容

学校等での人間関係に傷つき疲れた子どもたちが、人と人との関りで回復を少しずつして行く過程で、早い段階で社会（地域）とつながりを持つことで、子ど もたちの他者への信頼の回復、そして今現在～大人になったときに孤立をしないための取り組みを行う。

①地域と顔の見える関係性作り

②保護者会（保護者同士の繋がり）の実施

③子どもの居場所を平日に実施（火～金 11:00－15:00）

報告

活動報告書作成

新境谷地区を中心とした学校や公的施設に配布。または HP にも掲載する。

子どもがエンパワーされ、そのプロセスで大人もエンパワーされる居場所づくり事業

スタッフ

津富、千葉、奥山

予算

2,815,052 円

（公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　子ども・地域おうえんファンド）

目的

東日本大震災やコロナ禍により地域全体の経済・暮らしの環境が大きく変化し、子どもの生活環境においても様々な課題が深刻化した。例えば、小学校の不登校出現率は 1.06%、中学校では 6.26%と全国平均、県内平均より高く深刻化している。また、当法人が 2021 年に対応した 133 件の子ども・若者のうち、52.6%は生活困窮・ネグレクト・精神疾患等の複合的困難を抱えている。一方で、子どもを真ん中にした支援が重要だが、現時点では実践例や知見が乏しい。こうした状況から、子どもが本来持っている力を引き出すようなエンパワメントの概念に着目して、当法人の居場所事業での実装を目指して、「エンパワメントを軸にした居場所づくり」を目的とした事業を今回申請するに至った。

活動内容

3 年目を迎える現在では「持続可能な支援体制」「困難を乗り越えてまでこの地域で暮らしていきたい」と思える地域に近づくために、3 年目は「地域の大人」と一緒に活動する機会を作り続けることに力を入れていきたい。地域の子どもたちを今後支える、見守っていくのは地域の大人たちである。そのために支援者はもちろん、地域の大人にもエンパワメントに触れる機会を作っていきたいと考えている。子どもから見たときに「頼りになる大人がいる」「自分のことを信じて見守ってくれる大人が近くにいる」と思える人との出会いに繋げていきたい。大人から見たときには、地域の中には色んな要因があって力を発揮できない、阻害されている抑圧されている子の存在を知ってもらう。タイミングがあえば、本事業の居場所づくり（もしく委託の事業）に参加できる機会や、これまでスタッフやボランティアに登録していた人を対象としていた研修（勉強会）に参加できる機会を増やしていく取り組みを行っていきたいと考えている。

報告

・助成期間終了後（9 月末）に事業報告書を提出。

・年末に TEDIC の事業報告会にて報告

子ども・若者の居場所から始まる地域のつながりプロジェクト

スタッフ

奥山、高橋、阿部明日香

他新規２名採用予定

予算

9,037,959 円（公益社団法人ハタチ基金　ハタチ基金）

目的

石巻市の子ども・若者が、地域の大人と出会うことができ、支えてもらえる地域をつくることを目的とする。この目的を達成するために、ミクロな場づくり（地区単位で、子ども・若者と地区の大人が関わり合う場づくり）とマクロな場づくり（石巻市を単位とし、市全域の子ども・若者と、市内の活動団体が関わり合う場づくり）を並行して展開するとともに、大人の側がこうした場づくりを行う力を身につけるための研修を行う。

活動内容

令和６年度の石巻市の若者調査では必要な取り組みとして「子どもや若者の居場所づくりを推進する」が 35.3％と全体の２番目に多かった。当団体の利用者からも「学校終わりに過ごす場所が少ない」、「商業施設のフードコートで時間をつぶす」という声がある。そこで、対象者を限定せず、地域の人と交わることができる場を開く。蛇田拠点は蛇田地域に根差した子どもと大人が集う場、中里拠点は関係機関や団体の連携により石巻全域の子どもが集う場とする。居場所への参加や公開研修等を通じて、地域の大人が子どもを見守る応援団となり、また、団体のつながりをつくることで、「チーム石巻」として地域の子どもたちをケアする体制を目指す。

①ほっとんち（火曜～金曜・第２・第４土曜日）

蛇田拠点の開放を通して、子どもが大人と出会う活動を行うことで、年齢を問わず、地域の大人の出番を増やし、地域の担い手の世代交代を促進する。

②レインボーハウス（月２）

石巻市域の子ども・若者に関わる団体やそれ以外の団体・企業・行政の連携により、石巻市全域の子どもが利用できる拠点を運営し、市全域の子どもに対して、関係団体が協力し合って支える包括的な支援体制をつくる。

③地域開かれた場の研修（年４回）

子ども・若者の応援団を増やし「チーム石巻」として地域の子どもたちをケアできるよう、子どもとかかわる大人の力量の底上げを図る。

報告

年度末に報告書を作成し報告会をレインボーハウスで行う。（昨年度も実施済）

石巻圏域の高校生と大学生のための第３の居場所づくりプロジェクト

スタッフ

津富、千葉、高橋

予算

5,350,000 円（公益財団法人子ども未来支援財団　子どもサポート基金）

目的

長期的には、石巻圏域の高校生全てに「何か困ったことがあった時に相談できる人がいる」状態を目指す。これは宮城県の示す、「新・宮城の将来ビジョンにおける教育分野の主な方向性」と合致するものでもある。その為の中期目標は、全ての高校内に高校生が安心して相談できる相談機能の設置と、早期に地域と接点を持ち、困ったときに助けてくれる大人と出会う事が必要。大学生は地元出身の学生もいるが、遠方から進学する学生もいる。知り合いが多くはない中で生活をしていく。孤立しないようにキャッチアップをしていく必要がある。

高校生や、大学生が困ったときにすぐに助け合える顔の見える関係性を石巻圏域で作っていく。

活動内容

■校内居場所

石巻圏域の高校、及び県内の大学において出張居場所が開催され、若者が家や学校以外の人に相談できる環境が保証されている。

24 年度高校 1 校での出張居場所の実施

25 年度、校内居場所開始見込みが新規で 1 校

■勉強会・研修の実施

子ども若者を見守る市民が学べる環境をつくる

報告

TEDIC の事業報告会にて事業報告を実施

助成期間終了後に報告書を提出